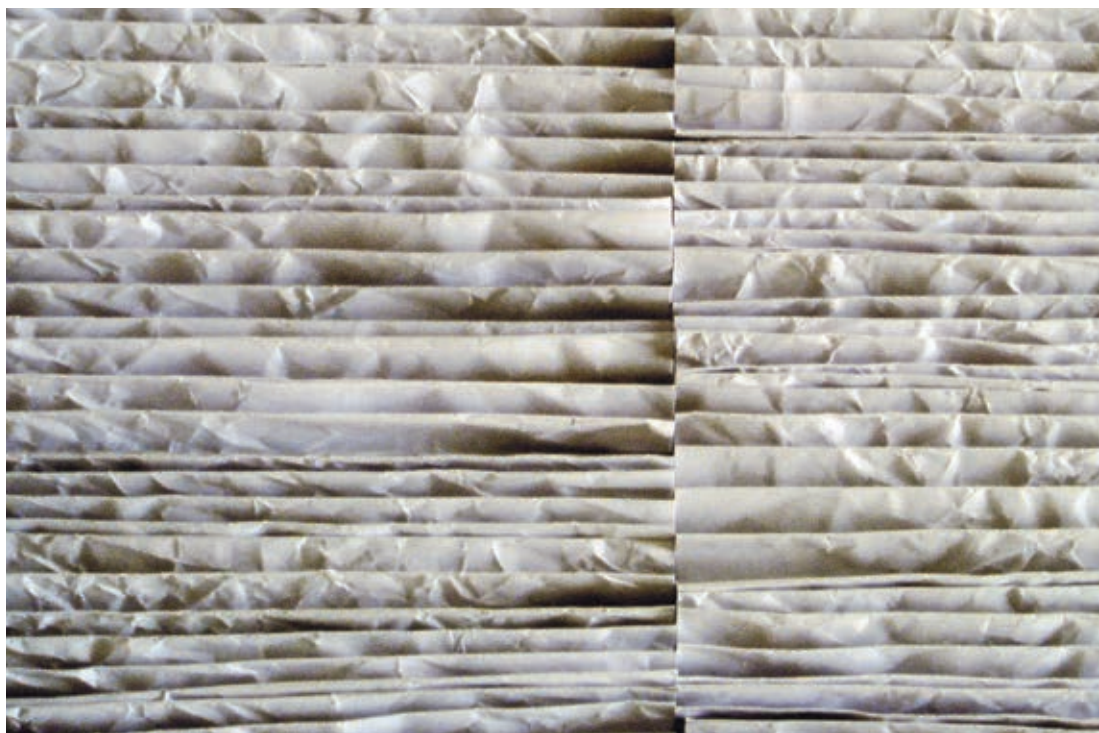


労働の科学

Digest of Science of Labour

2 0 2 0
May
Vol. 75, No. 5



特集

消防職員の仕事と安全健康

自治体消防の持続発展と消防職員の未来

消防救急行政におけるディーセント・ワークの確立のために—新型コロナウイルス感染症対応事例から／宮崎伸光
一人も自殺する職員を出さない民主的な消防職場を／高島眞治
消防行政をめぐる日本の特性—消防職員の労働基本権・団結権／斉藤英之
災害救援活動と消防職員の惨事ストレス／畑中美穂
石油コンビナートにおける災害防止と消防／川上昇剛
大規模災害に活動する消防—住民等との協働・連携した防災活動の充実に向けて／中村義彰
これからの消防職員の働き方と民主的な職場づくり—女性の参加と労働生活環境の改善／長谷川亜純

巻頭言

災害に立ち向かう労働者の
安全衛生を考える

甲田茂樹

セミナー
再録

誰もが生き生きと働ける社会を
つくる(下)

村木厚子

連載

凡夫の安全衛生記⑪

福成雄三

労働の科学

2020
May
Vol. 75, No. 5

巻頭言

俯瞰（ふかん）

災害に立ち向かう労働者の安全衛生を考える

1

甲田 茂樹 [独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所]

作品 About Light：高見 晴恵

素材：コピー用紙

2007年9月8日～30日

モルビーロンガコンストホール・モルビーロンガ／スウェーデン

Mörbylånga Gallery of Art・Mörbylånga

撮影：高見 晴恵

表紙デザイン：大西 文子



消防職員の仕事と安全健康

——自治体消防の持続発展と消防職員の未来

消防救急行政におけるディーセント・ワークの確立のために

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応事例から

..... [法政大学法学部] 宮崎 伸光 4

一人も自殺する職員を出さない民主的な消防職場を

いま働く消防士、今はまだ見ぬ消防士たちのために

..... [高松市石の民俗資料館／元高松市消防局長・元全国消防長会副会長] 高島 眞治 8

消防行政をめぐる日本の特性

ILO勧告と日本の消防職員の労働基本権・団結権

..... [全国消防職員協議会] 斉藤 英之 14

災害救援活動と消防職員の惨事ストレス

..... [名城大学人間学部] 畑中 美穂 19

石油コンビナートにおける災害防止と消防

..... [四日市市消防職員協議会] 川上 昇剛 24

大規模災害に活動する消防

住民・他団体等との協働・連携した防災活動の充実に向けて

..... [全国消防職員協議会／越谷市消防職員協議会] 中村 義彰 28

これからの消防職員の働き方と民主的な職場づくり

女性の参加と労働生活環境の改善

..... [全国消防職員協議会 女性連絡会] 長谷川 亜純 33

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 17 [見る・活動](112)

..... 長須 美和子 口絵

Series

大原記念労働科学研究所セミナー再録 5

誰もが生き生きと働ける社会を創る(下) 村木 厚子 38

労研アーカイブを読む(55)

安全ナレッジマネジメント(AIAIモデル) 椎名 和仁 44

凡夫の安全衛生記(41)

「多様な業務を知って①」社内鉄鋼関連事業 福成 雄三 48

Column

第11回日韓参加型産業安全保健ワークショップ(北九州)

参加型職場環境改善のファシリテーターに対する養成研修の効果と課題

日本と韓国の参加者における違いに着目して 石丸 知宏, 原 邦夫 50

Between(5)

「写」について 高見 晴恵 55

KABUKI

伊賀越道中双六 六段目『沼津』

歌舞伎で生きる人たち その九——辛苦の闇に見える灯 湯浅 晶子 56

Talk to Talk

意に備えしか 肝付 邦憲 58

労働科学のページ 62

次号予定・編集雑記 64



災害に立ち向かう労働者の安全衛生を考える

甲田 茂樹

わが国は平成に入ってから数多くの災害を経験してきた。阪神淡路大震災や東日本大震災などの地震災害、局所・集中化する豪雨や大型化する台風による自然災害、地下鉄サリン事件のような事件災害、さらには、今回の新型コロナウイルス感染症も深刻な災害といえる。これらの災害には最前線で消防や警察、時には自衛隊が、後方では医療・保健従事者や公務員、時にボランティアが対峙してきた。そして、災害に立ち向かう労働者は常に生命や健康の危機に曝されてきた。

東日本大震災は極めて甚大な被害をわが国にもたらしたが、その対応にあたった労働者も多大な影響を受けた。もちろん、災害時に亡くなった労働者も多いのだが、研究所では過労死等防止調査研究センターと労働者放射線障害防止研究センターがこれらの労働者の健康問題に取り組んできた。過労死センターでは、被災者支援や復興に向けた長時間労働による脳心疾患やご遺体の確認作業あるいは悲惨の災害場面の遭遇によるうつ病やPTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症した労災・公務災害事案を検討してきた。また、放射線センターでは東電福島第一原子力発電所のメルトダウン時に、引き上げられた緊急時の被ばく線量限度のもとで緊急作業に従事した労働者を対象に、被ばく線量と健康との関係について

疫学的追跡調査を実施している。

もちろん、災害の違いによって、対峙する労働者が曝されるリスクは異なる。今回の新型コロナウイルスのパンデミック災害では、院内感染にみるように医療労働者がコロナウイルスという生物学的因子に強く曝され、自らが感染した事案も多数報告されている。それ以外でも、重症患者の搬入増加に伴う業務上のストレス、長時間勤務や休憩・睡眠不足などに伴う疲労困憊状態が筋骨格系障害、燃え尽き症候群、医療事故の誘発など、単なる健康障害に止まらず、適切な医療の提供さえもままならない医療崩壊を引き起していた。

今回、本誌で特集される消防職員は災害に立ち向かう労働者の典型である。地震や水害などの天災時に住民等の生命や財産を守る業務、工場火災のような特殊な状況下での消火業務、交通事故での救命救助業務、重篤な感染症患者の搬送業務、まさに、消防職員は、生命や健康を脅かすさまざまなリスクと隣り合わせで働かなければならない環境にある。

私が大学院生の頃に「平時の安全衛生、戦時の災害補償」という考え方に接した。安全衛生は労働災害や健康障害を想定した日頃からの予防対策活動が重要になり、災害時に発生した労働災害や健康障害は予見できない事案が多いため、労災



こうだしげき
独立行政法人労働者健康安全機構
労働安全衛生総合研究所所長代理
主な著作
・『産業医活動をする人のために』
日本産業衛生学会産業医部会編
（分担執筆）産業医学振興財団、
2005年。
・『今日の疫学』（第2版）（青山英
康監修、川上憲人・甲田茂樹編集）
医学書院、2005年。
・『産業保健マニュアル（改訂7版）』
森晃爾総編集（分担執筆）南山堂、
2017年。

補償として対応せざるをえないという考え方である。一理あると思う。今まで、生命と健康を脅かす災害関連のリスクに対して、現行の労働安全衛生法規は列挙方式であるため、想定外のリスクと災害や健康障害に対応できてこなかった。しかしながら、さまざまな災害を経験してきた私たちがからこそ、災害に立ち向かう労働者がどのようなリスクに曝され、結果的に生命や健康の危機に直面するのか、どうすれば防ぐことができるのか、具体的な予防対策を志向する安全衛生を考える時期に来ているのではないか。